

### 3

## ごみはどこへ

ごみは、どこへ運ばれていき、どうやってしょ理されているのでしょうか。

### ごみのゆくえ



いろいろな種類のごみがしゅう集場所に出されているね。



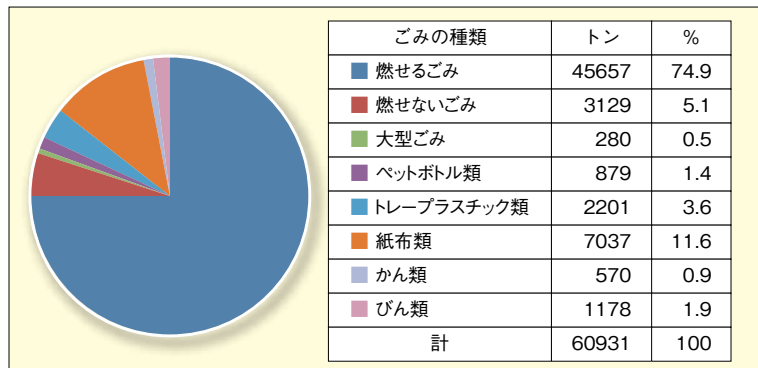
学校のじゅ業でも、家でご飯やおやつを食べる時も、本当にいろいろなところでごみはでてしまうわ。

家や学校などからは、燃せるごみや燃せないごみ、かんやびん、ペットボトルなど、いろいろな種類のごみが出されます。小田原市では、ごみの分け方や出し方、出す日などのきまりを作って、これらのごみを集めています。

ごみは、係の人がしゅう集車で集め、<sup>かんきょう</sup>環境事業センターに運びます。

市全体のごみの中身の割合(令和6年度)

どんな種類のごみが多いのかしら。



※端数処理をしているため、合計値が一致しない場合があります。

## ごみをしょ理する人たち

ごみを集めるために  
どんな工夫や努力を  
しているのでしょう。



小田原市で1日に出るごみの量(令和6年度)

**1日167トン**

※2トンつめるしゅう集車で約84台分

※4年生(1人約30kg) 約5600人分

ごみを集める仕事は  
たいへんそうだね。



### 市の係の人の話

ごみをきちんと集めるために、ごみを出してもらう時間や集める道  
じゅんを決めています。

集める時にこまることは、ごみの分け方や出し方のきまりを守らな  
いで出されたり、ふくろがやぶれ、カラスなどにあらされて、ごみが  
ばらばらに散らかってしまっていたりすることです。

みんなが気持ちよく生活をするために、一人ひとりがきまりを守ってごみを出して  
ほしいですね。また、台所からの生ごみは、水をよくきって出すなど、少しの工夫を  
してもらうことで、ごみの量はもっとへっていきますね。



ごみの出し方の  
きまりを守ることは、  
とても大切なんだね。



ごみの出し方の  
ルールや出して  
いい曜日を  
調べてみよう。



かんきょう  
環境事業センターで  
はごみをどのように  
しょ理しているの  
でしょう。

かんきょう  
環境事業センターをたずねて



## も 燃せるごみのしょ理



市内から集められたごみは、しゅ  
う集車ごとに重さをはかります。



ごみは、投げ入れ口から大きなごみの  
ちよぞう庫へ。



板や木の枝などの大きなごみは、  
細かくくたいてからごみのちょ  
ぞう庫へ。



ちよぞう庫のごみは、クレーンで  
よくまぜ、持ちあげて焼却炉へ。

(1回につかむごみの重さは約1トン)



ごみは、800～950℃の高温で安定して燃やしますが、燃えカスが灰となって残ります。



中央制御室では、交代いで24時間、いつも焼却炉やえんとつを見守って運転しています。



残った灰は、道路をつくる材料としてリサイクルされるほか、堀ヶ窪（久野）にある最終しよ分地に運ばれ、うめたてられます。しかし、最終しよ分地の広さもかざられているため、数年でいっぱいになってしまいます。



ダイオキシンが出ないように、燃やした時に出るガスは、きれいにしてから外へ出します。

### ダイオキシンとは？

ダイオキシンとは、おもにものを燃やす時に発生するもので、ほんのわずかな量でも、人やほかの生き物の健康や生命に、悪いいきょうをあたえると言われてています。

ぼくたちが出したごみの灰を、他のまちに引き取ってもらっていたなんて知らなかったよ。



あなたは、このことについてどう考えますか？

ごみをへらすために、  
 どんなとりくみが  
 されているのでしょうか。  
 また、わたしたちは、  
 どんなことができるのか、  
 考えてみましょう。

## これからのごみしよ理

### 環境政策課の係の人の話

小田原市ではみなさんがごみを出すときに、9種類のごみにこまかく分けて出してもらっています。あきかん・あきびん・紙・布・ペットボトル・トレー・プラスチック類など、「資源」として再利用できるものをほかのごみと別にして出してもらい、それを再び利用する「リサイクル」を進めています。



このようにすることで、今まで燃やしたりうめ立てたりしていたごみも資源として生かすことができ、燃やすごみの量自体が減るので燃やした後に出る灰もへらすことができます。さらに、かぎられた資源の節約にもつながりますので、市では市民のみなさんに資源を生かすことへの協力をよびかけています。

また、「リサイクル」のほかにも、ごみ自体を出さないように努力する「リデュース」、使いすてをやめてものを何度もつかうようにする「リユース」を心がけることも、ごみをへらすためにとても大切なことです。みんなで心がけていくことで、必ずごみをへらしていくことができます。

学校や家でできる  
 ことが、ほかにも  
 まだありそうだね。



教室にはごみの種類ごとに  
 ごみ箱があります。



給食の残りを生ごみしよ理機  
 で、たい肥にしています。

小田原市では、平成9年度からごみの分別方法が変わりました。分別され集められたごみは「焼却(燃やす)」「資源化(リサイクル)」「うめたて」されます。

ごみ処理のうつり変わり	燃やしたごみの量(t)	埋め立てたごみの量(t)	資源化されたごみの量(t)
平成9年度	56741	1947	18773
平成13年度	65288		1276
平成27年度	52190	553	18535
令和元年度	51360	404	17048
令和2年度	49891	707	16263
令和3年度	48210	573	16146
令和4年度	48327	379	15567
令和5年度	47108	426	14602
令和6年度	46329	467	14135

## 分別されて集められたペットボトルはどこへ

市内から集められたペットボトルは、  
環境事業センターかんきょうじぎょうの中にあるペットボ  
トルをしょ理するしせつに送られます。

このしせつには、年間約880トン(1  
トンでペットボトル約3万5千本分)も  
のペットボトルが集められ、とくに、  
夏の時期はふだんの倍の量になるそう  
です。

キャップをはずしたペットボトルは、  
機械で約500本分をまとめてつぶして  
固められます。

一つあたり、約20kgのペットボトル  
のかたまりがたくさん作られ、せん門  
の業者に引き取られて加工され、ふた  
たびペットボトルや別の新しいせい品  
になります。

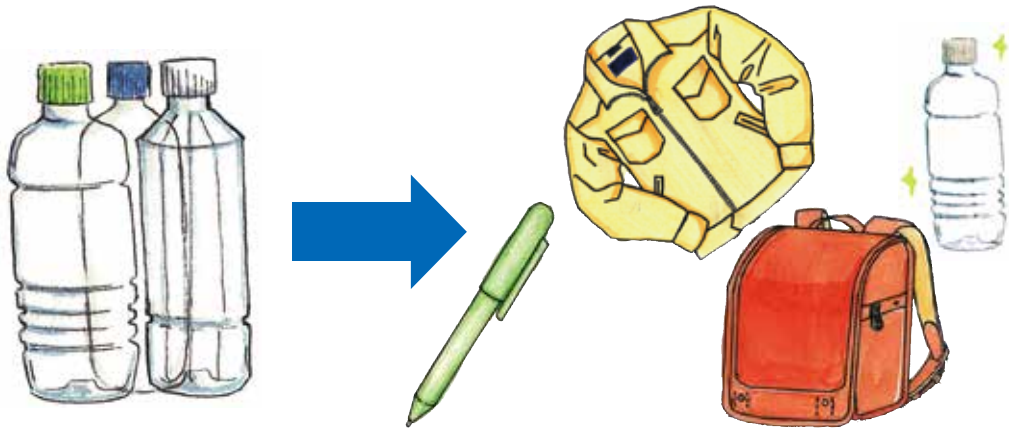


### 係の人の話

小田原市ではペットボトルをごみとして出すときに、中をよく洗い、キャップをとるルールになっています。しかし、10本のうち3本ほどはキャップがはずされずに出されています。そのようなキャップは係の人がすべて手作業ではずさなければならず、その数は一人で5000こ近くにもなります。

また、ペットボトルとして出されたごみ袋ぶくろの中に、かんや、びん、時にはほうちょうなどのきけんなものが入っていることも少なくありません。みなさんにはルールを守って正しくごみを出してほしいですね。





せい品によって原料となるペットボトルの量はちがいますが、学校で使うものでは、じょうぎやペン、ランドセルや体育で使うマット、ボールネットなどにもなります。また、糸にもなるので、シャツや手ぶくろ、バッグなどにもなります。

ペットボトルにかぎらず、かんやびんはもちろん、新聞紙やざっしなどの紙類、トレーやかん電池、テープなど分別して集められたごみの多くが資源として再利用されています。

かざられた資源を大切に使う工夫が、たくさんあるんだね。



1リットルの牛乳パック6枚で、トイレトーパーが1個できるんだって。



ほかにもどんなものに再利用されているのか調べてみたいな。



- ・ものを買うとき
- ・ものを使うとき
- ・ものをすてる時

ごみをへらすために、わたしたちができることは何か考えてみましょう。

- 小田原市でとりくんでいる5R
- ・リデュース（ごみを出さない）
  - ・リユース（再利用する）
  - ・リサイクル（再資源化する）
  - ・リフューズ（ことわる）
  - ・リペア（直して使う）

